

第6章 「障がい者」・「セクシュアルマイノリティ」・「海外からの研究者・学生」に関する意識：2020年度ダイバーシティに関するアンケート「その他多様な参画について」における自由記述内容の分析

6-1. はじめに

2021年2月に岡山大学教職員・大学院生を対象に行った「ダイバーシティに関するアンケート」では、「その他多様な参画について」という項目を設け、「障がい者」、「セクシュアルマイノリティ」、「海外からの研究者・学生」、以上の属性を有する構成員あるいはステークホルダーへの支援や配慮に関して回答を得た。このとき各設問（例えば、「本学では、障がい者・障がい学生に配慮したバリアフリー設備が整備されていますか」と問い、「十分に図られている」、「やや図られている」、「あまり図られていない」、「全く図られていない」、「わからない」、「未回答」の選択肢を提示した）へ回答するにあたり、任意で「そのように思う理由」について自由記述を求めた（具体的な設問については、巻末の資料を参照）。

その結果、全ての有効な回答者の中で、それぞれの項目において自由記述に記載を行った回答者数とその割合は（Table 6-1）の通りであった。

これらの項目について自由記述を求めたのは、数値的な統計だけでは窺い知ることのできない本学の実情について、より詳細に把握できるようにするためである。回答について質的な分析と考察を行うため、学内の「障がい者」、「セクシュアルマイノリティ」、「海外からの研究者・学生」に関して専門的な研究を行っている教員2名を含む協議を実施し、全ての回答内容の読み合わせによって分類ラベルを作成した上で、各記述を分類した。この分類にあたり、複数の分類ラベルにまたがっている記述内容に関しては該当するラベルを全て付与した。また、記述だけでは判断のつかないニュアンスを含む場合に関しては、各自由記述の前問における回答を考慮した上で分類した。

なお、各「障がい者」、「セクシュアルマイノリティ」、「海外からの研究者・学生」の最終設問では、「申し出やすい雰囲気」の有無について聞いている。この回答については内容にラベルを付与して分類するのではなく、記載された文面を可能な限りそのまま列記して示すこととした。このまとめと考察は、自由記述欄に記載された肯定的あるいは否定的意見について全構成員が情報共有することにより、理解と思慮をさらに深めていくための資料とすることを目的としている。そのため、原則として一切の加工を行わずに記載することとした。ただし個人が特定される恐れがあるものはニュアンスの保持に留意した上で一部の情報を割愛している。また、タイピングミス等と明らかに判断できる誤字・脱字

(例えば、「私の場合…」といった助詞の重複等)については修正を加えた。

(Table 6-1) 自由記述回答者数と割合 (全回答者数修正)

区分	設問内容	全回答者数 (人)	自由記述回 答者数 (人)	割合 (%)
障がい者	法律の周知	1699	275	16.2
	バリアフリー設備の整備	1704	299	17.5
	相談先の整備	1685	173	10.3
	申し出やすい雰囲気	1691	138	8.2
セクシュアル マイノリティ	差別的な言動や場面※	179	50	27.9
	配慮した設備の整備	1694	196	11.6
	相談先の整備	1670	118	7.1
	申し出やすい雰囲気	1667	112	6.7
海外からの 研究者・学生	相談先の整備	1697	167	9.8
	申し出やすい雰囲気	1699	112	6.6

※「見聞きしたことがある」とした回答者に限る

6-2. 「障がい者」に関する自由記述について

6-2-1. 法律の周知

2016年4月に施行された「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」について、「本学では、上記の法律が定められていることについて、周知が図られていると思いますか」と聞いたところ、以下のような回答 (Table 6-2) が得られた。

(Table 6-2)

	十分に図ら れている	やや図られ ている	あまり図ら れていない	全く図られ ていない	わから ない	合計
回答者数 (人)	141	596	470	61	431	1699
割合 (%)	8.3	35.1	27.7	3.6	25.4	100

この回答に基づき、「そのように思う理由」について任意で自由記述を求めた結果、全1699名の回答者中275名 (16.2%) から、425件の意見 (Table 6-3) が得られた。

法律の施行から5年が経過し、日常的な業務の中で「合理的配慮」という用語が浸透

しつつあることが窺えるものの、自由記述から垣間見られる課題点として、法に基づく適切な整備が不十分ではないかという指摘も複数あった。また、施行当初は研修等による周知が行われていたが、次第に機会が少なくなっているといった指摘や、学内での支援事例等を共有すべきといった、継続的な周知のあり方について課題が見られる。この法に関する改正法案が2021年5月の国会で可決され、2024年6月までに改正法が施行されるタイミングでもあり、今一度、十分な周知や理解啓発を行っていく必要があると考える。

(Table 6-3)

分類ラベル	件数	主な意見
○周知がある（メール・文書等）	55	<p>文書等による周知や研修も十分に行われており、十分な周知が図られていると考えられる。</p> <p>大々的には感じられないが、このようなアンケートや伝達文書において、上記の件について書かれているのを目にしている。</p> <p>シラバスなどへも配慮の記載が求められており、ある程度周知はされていると考える。</p>
○体制が整備されている（窓口・連携・部局内体制）	12	<p>少なくとも、講義において障害がある学生が受講する場合、教務より告知が来て、対応するように求められているため。</p> <p>障害学生支援室の先生方には大変お世話になっている。研修もいつも丁寧にして下さっているので感謝している。</p>
○理念の定着・浸透が進んでいる	15	<p>特に意識していなくても関連の法律に基づいた取り組みがなされていることを認識できているから。</p> <p>周囲の職場ではもともと程度に差があれば障害に対して寛容である。</p>
○対応できている・困っていない	15	<p>学生からの申し出に対しては必ず対応しているため。</p> <p>GIDの方の採用希望が普通にある。身体疾患による治療後も復職できている。</p>

△周知が不十分である	127	<p>法律施行前には、頻回に説明会を開催されていたように記憶しています。その時と比べると「十分に図られている」とは言えないように思います。</p> <p>I can't tell because I am an international student.</p> <p>法律が施行されて適用されるまで1年余りの周知、準備期間が置かれていたが、その間、法律が出来ることとその内容を厚労省のガイドラインで説明・周知されていたが、岡大（あるいは大学としての事業所）独自の事例を取り上げて具体的に、身近な問題として紹介するなどの工夫も必要ではないかな、と思料します。</p>
△体制が整備されていない（窓口・連携・部局内体制）	20	<p>身体障害がある者にとって、段差1段でも「バリア」である。視点が健常者からの視点なので建物構造からしてバリアフリーではないと感じる。</p>
△理念の定着・浸透が不十分である	22	<p>故意な差別は見られませんが（特に健常者からは）障がいや病などの発言には億劫になる文化・空気感は存在するかと思われます。もう少しカジュアルにそういった類のトピックが話し合われる社会になるといいなと思います。</p> <p>障害を持たれる方が働かれているが、差別する職員が未だにおられるため</p> <p>障害や雇用を積極的に行っているのは、真に社会として必要と考えているのではなく、大学としてのノルマ達成を目標としているため</p>
△対応に問題がある	10	<p>障がい者が研究室に所属しているが、合理的配慮の提供が十分だったとは思えない。</p> <p>設備が障害者対応になっていない（これは最低限のレベル）。</p>
△当事者参画が不十分	5	<p>過去に在籍した大学では、障がいを持つ教員がメンバーとなって、障がいを持つ立場のニーズを直接把握分析し施策に結びつける運営組織があった。そのような組織が声をあげないと施策に結びつかないと思う。また、そうした組織の発信力がカギを握ると思う。</p> <p>大学の各部局において障害者雇用が進んでいない。障害者と一緒に働いていないので自分たちに障害者の事は関係ないと思っている。</p>
△法・制度そのものが問題	2	<p>身体障がいと精神は同列に語れないし、合理的配慮という表現は、ざっくりし過ぎている。基本的に障がいで0.5の仕事しかできなければ、誰かが1.5の仕事をしなければならないが、業務の中でそれを分けることは困難であることを知らない者もいない。</p> <p>実際の現場での対応や教員の意見の中には、合理的配慮を疑問視する声が増えつつあるため。</p>

分からない	31	モデルケースになりそうな案件に出会ったことが無いのでよくわからない 自分に障がないので、自分では分からない。障がある人に尋ねないと分からないことだと思う。
その他	5	敢えて意識していない。 特に何も思っていない。
特にない	3	

6-2-2. バリアフリー設備の整備

次に、「本学では、障がい者・障がい学生に配慮したバリアフリー設備(点字や音声等情報保障のある案内・トイレ・スロープ・エレベーター等)が整備されていると思いますか」と聞いたところ、以下のような回答 (Table 6-4) が得られた。

(Table 6-4)

	十分に整備されている	やや整備されている	あまり整備されていない	全く整備されていない	わからない	合計
回答者数 (人)	141	968	380	26	189	1704
割合 (%)	8.3	56.8	22.3	1.5	11.1	100

この回答に基づき、「そのように思う理由」について任意で自由記述を求めた結果、全1704名の回答者中299名(17.5%)から、322件の意見 (Table 6-5) が得られた。

選択肢では「十分に整備されている」と「やや整備されている」が6割以上となっていたが、自由記述では、さらに取り組むべき課題が多数言及されていた。「多目的トイレ」については整備が進められているものの、まだ絶対数の不足や使いづらさといった意見があった。全般的な「移動に関するバリア」については、様々な場所に段差が点在しているという言及があり、例えば車椅子を使用する参加者がどう迂回しても困難である部分が生じた場合について、早急な整備が求められると考える。視覚障がいあるいは聴覚障がいに応じた整備は、点字・音声案内・文字案内といった点で不十分ではないかという指摘があった。2022年5月の「障害者による情報の取得及び利用並びに意思疎通に係る施策の推進に関する法律(障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法)」施行も踏まえ、今後検討すべき課題である。

また、せっかく整備していても、周知や案内が不十分なため、どこがバリアフリーに改修されたか分かりづらかったり、バリアフリー動線上に自転車が停められていたりする、といった意見があった。設備面での改修と並行し、十分な周知や理解啓発を行っていくことが改めて重要であると考え。以上に加え、精神障がいに対する配慮に関して整備を行っていく必要性への指摘があり、気付かれにくい障がいに対する配慮といったことにも十分に留意すべきであることが示唆された。

(Table 6-5)

分類ラベル	件数	主な意見
○整備が進んでいる	118	Nowhere in the world has done this much for the disability as much as Japan. I think so because I have been traveled to 15 countries. Japan made me surprise. キャンパスの隅々に渡って把握しているわけではないが、私が普段利用する施設では点字・スロープ・トイレ・エレベーターについては耐震工事後整備が進んだと理解している。
△トイレが不十分である	30	障がい者用のトイレが少ないような気がする。もっとふやすべきだと思う。(学部によって多いところと少ないところがあるように思う。) トイレが薄暗く、目の不自由な人は使いづらい。またトイレが狭く、介助するのも大変だと感じる。
△移動設備が不十分である(エレベーター・スロープ・手すり・雨除け移動不備：凹凸・段差・階段)	92	フラットと思われる通路(屋外)を歩いている、割とでこぼこを感じます。これは、車いすや、脚が少し不自由な方には、危ないかなと思います。 スロープが急であったり、スロープがタイルなど凸凹したものの箇所がある。また、車椅子の障がい者が車から降りる際に、屋根のある箇所で乗降可能な建物が少ない。 講義室にも段差が多く(ステップの段差が異常に狭いところもある)、足が悪くない人でもつまずき易い作りになっていると感じる。
△文字等、視覚情報が不十分である	1	聴覚障害への対応が不足している。
△点字・点字ブロックが不十分である	20	点字で表示も非常に限定的。 点字ブロックの敷設状況、構内のバリアフリー化、視覚障害学生支援の実績などに改善を期待したい。

△音声案内等、聴覚情報が不十分である	19	<p>トイレに音声案内を見たことはありません。</p> <p>音声等の情報保障については整備状況がわからないため。</p>
△歩道・信号等、沿道周辺が不十分である	2	<p>通学路も含む段差や、道路の凹凸。</p> <p>道路の段差が大きいところを車椅子の方が苦労しながら渡っている様子をみかけるので。</p>
△精神（発達）障がいへの対応が不十分である	1	<p>障害者、と一言で述べられているが、その多くは身体障害者を対象としたもので精神障害者に対するケアについては、ほとんど認識されていないのが実情である。ただし、未成熟な日本社会においては、精神障害者に対するケアを促す講習会などを実施したところで、ほとんど効果はないと思われるが。</p>
△周知が不十分である	13	<p>障害者用の駐車スペースに、一般車が駐車して困ったという事例を聞いたことがある。</p> <p>自転車が乱雑に駐車されている。</p>
△授業・ガイダンス等の対応が不十分である	6	<p>キャンパス全体で見ると広すぎるせいか、学内の移動についての時間的なバリアフリーがなされていない。たとえば、授業間の時間が10分しかないので、キャンパス内での移動が難しいのではないかと思う。</p> <p>教育に関してバリアフリーになっていないように思います。</p>
△大学の方針が不十分である	5	<p>障害を持つ学生や職員の意見をもっと積極的に取り入れるべき。</p> <p>事業に応じて施設整備が行われ、キャンパス全体を見渡した統合的な対応が方針として明示されていないように感じます。</p>
△全般的に不十分である	81	<p>古い建物も多く、予算的な問題もあるため、完全な整備には時間がかかるものと思われる。公的機関として、こういった法律等にそった改善が遅滞なく行われるべきであると思うが、一方で国立大学の予算は年々削減傾向にあり、改善するための予算措置もされない為、経済的に早期に改善することは困難な状況だと思われる。</p> <p>大学設備自体が古い為、改修工事が追い付いていないのが理由。</p> <p>必要に迫られたところで、必要に迫られたときにだけ対応しているイメージだから。お金がなくてできないことがたくさんあるのだろうなと思っています。</p>

分からない	32	十分に整備されているかどうかはそれを利用する人が判断することであるから。 そういう目で学内を見たことがあまりない。 実際の障害者の方の意見が分からないから。
その他	3	実際に使う人が現状の配慮で満足しているのであれば、このような質問がアンケートに出ることはないでしょう。 障がい者の絶対数が少ないので、何が問題かの意見がないし、意見をいうところもない。また、障がいは一様ではないので、すべてのニーズに対応することは最初から難しいから合理的配慮内での整備しかできないのはしかたがない。
特になし	2	

6-2-3. 相談先の整備

また、「本学では、障がい者・障がい学生が必要とする支援について、相談先が整備されていると思いますか」と聞いたところ、以下のような回答 (Table 6-6) が得られた。

(Table 6-6)

	十分に整備されている	やや整備されている	あまり整備されていない	全く整備されていない	わからない	合計
回答者数 (人)	138	602	210	15	720	1685
割合 (%)	8.2	35.7	12.5	0.9	42.7	100

この回答に基づき、「そのように思う理由」について任意で自由記述を求めた結果、全1685名の回答者中173名 (10.3%) から、232件の意見 (Table 6-7) が得られた。

まず、相談先の課題として、日本人学生に対しては整備の進捗が見られるものの、教職員・外国人・その他構成員については十分ではないという意見が複数見られた。合理的配慮の提供義務に基づき、学生支援は進められてきたが、キャンパス内には様々な属性の利用者が存在することを踏まえ、さらなる窓口の明確化が求められる。

また、年々対応件数は増加傾向にあり、相談等の対応にあたる専門人員について、十分とはいえないのではないかと指摘もあった。このことに関連し、専門部局への障がい当事者の参画が必要なのではないかと指摘もある。また、「わからない」と回答し

た割合が 3 割を超えている点を踏まえつつ自由記述を確認すると、窓口そのものの周知が不足しているのではないかという指摘があり、整備と周知を並行して行っていくことが重要であるといえよう。

(Table 6-7)

分類ラベル	件数	主な意見
○体制が整備されている（窓口・連携・部局内体制）	62	相談室があり、学生支援等も行っている旨、メール等で拝見しているため、大学としての体制は整備されているのではないかとは思いますが。 規則及び制度上は、十分に整備されている。
○専門人員が配置されている	4	グッドジョブ支援センターには、仕事や生活について、相談に乗って話をしてくれる人がいるから。 分からないことや困ったことがあると支援員の方にアドバイスをもらえることについては助かっています。
○対応ができていない・困っていない	8	メールで簡単に相談もできて、敷居は低いと思う。 障がい学生が学部に入學するときに支援について親身に相談に乗っていただいたので。
○周知がある（メール・文書等）	12	以前いた大学よりは、メールなどでの案内や周知のための紹介が多い上に、障がいを持っている・いないなどに関わらず参加しやすいイベントも開催されていると感じました。 定期的に発信されている情報を目にしているため。
△体制が整備されていない	24	ストレスフリーなプラットフォームの構築が必要ではないかと思う。 教職員については相談できる部署が限られているため。 職員については不十分である。
△専門人員が不足している	6	障がい学生支援室が積極的に支援してくださるので大変ありがたいと思っている。支援室の人員を増やしていただくと大変助かる。 自閉傾向がある学生が増えており、対応いただく支援室や相談室の先生の業務がかなり大変になっているような気がします。 支援を必要とする学生・教職員数に対して、相談を受け止める側の教職員が少なく、負担が大きいのではないかと懸念する。

△対応に問題がある・日本語のみの対応である	17	For Japanese students: Yes; For International Students: No 学生本人が障害を持っていることに気づいていないケースも多く、そのあたりのフォローが出来ていないと思う。
△周知が不十分である	44	周知をされているのか疑問です。 実際に、誰もがアクセスできる場所に、案内が出されていない。入学時に障害を申請している学生だけでなく、障害をもっていない学生にも繰り返し周知するようにすべき。そうやって、初めて学生の意識も変わってくる。
△当事者の参画が不十分である	2	障害者支援の部署こそ実際気持ちのわかるハンディのある方を（障がいの方）を雇用すべき。 相談先に障がい者をもっと雇用する必要がある。
分からない	51	障がいをお持ちの方々にないと、本当のことはわからないのではないのでしょうか。このような質問をすること自体、あまり意味が無いような気がします。 実際の実例を経験していない。
その他	1	実際に使う人が現状の配慮で満足しているのであれば、このような質問がアンケートに出ることはないでしょう。
特になし	1	

6-2-4. 申し出やすい雰囲気

最後に、「本学では、障がい者・障がい学生が、配慮を必要とする時に申し出やすい雰囲気があると思いますか」と聞いたところ、以下のような回答（Table 6-8）が得られた。

（Table 6-8）

	十分にある	ややある	あまりない	全くない	わからない	合計
回答者数 （人）	120	466	278	29	798	1691
割合（%）	7.1	27.6	16.4	1.7	47.2	100

この回答に基づき、「そのように思う理由」について任意で自由記述を求めた結果、全1691名の回答者中138名（8.2%）から意見（Table 6-9）が得られた。

この項目に対する自由記述は、重要な示唆やニュアンスを含んでいるため分類はせず、以下に全てを掲載することとした。ただし、個人が特定される恐れがあるものはニュアンスの保持に留意した上で一部の情報を割愛している。また、タイピングミス等と明らかに

判断できる誤字・脱字（例えば、「私の場合…」といった助詞の重複等）については修正を加えた。

(Table 6-9)

申し出先の教職員の人なりによるのでは？

「申し出にくい雰囲気」というものがどういうものかよくわからない。
戦略的に施策が推進されていない。

スロープ、エレベータ等の環境が整っているから。

カウンセラー室のように相談できる場所があり、安心できる。

キャンパス内を行き来している人々とのコミュニケーションがあまりないと感じているから、配慮を必要とする人もその雰囲気で遠慮していると思います。

グッドジョブセンターに相談できると思います。

グッドジョブ支援センター内ではあると思っていますが、大学内ではよく分かりません。

そういった雰囲気を具体的に感じることはないのでわからない。

そのような場面に出会ったことがないから。

どこに申し出たらよいのかわからないと思う。

ホームページに記載しているから。

みんな冷たく自己中。

メール等で取り組みを拝見することがあるため。

よく周知されているため。

よく分からないが、十分だとは言えないように思う。

以前、部局に障がい者が配属され、不明点や申し送りなどはグッドジョブ支援室のご担当者が連携して対応してくれたから。

医療系であり疾病に対しての知識はあるため、理解が得られやすいのではないかと思うがなかなか難しい部分もあると思う。

該当者に聞いたことがないため。

学生はあるが職員はどうなのか？

学生は入学時に聞き取るが、職員は勤務部署内で対応改善の話を自分から言い出さなければならぬ。その場合、どう改善できるのかを「提案」しなければならない。当然の事だが、障がい者0.5の仕事しかできないと言え、誰かに1.5の仕事させる事を主張しなければならないので難しい。

看板がない。

管理職の職員より頻繁に差別発言を耳にする為。

関係する部署とのつながりがほとんどないため、実際の状況はわからない。

業務内において、直接的な障がい者・障がい学生との接点がないから。

具体的な組織・体制や障がい者の評価を認識していないため。

皆、忙しそうで、言えない雰囲気がある。

今は一緒に勤務する状況にないため、実際はわからないが、自分が配慮を必要とする時には申し出しやすいと思う。ただ、別の部署ではわからない。
自身がそのような申し出を受けたことがないため。

実際に障害のある方が勤務されていたため。

実際に相談がある。

実際の利用者がどのように感じているかは不明のため、分からないとさせていただきました。

十分かどうかはわかりませんが、学生からの申し出に対してしっかりとした対応ができてきているため。

十分かどうかは確信を持ってないが、雰囲気はあると思うから。

所属部署においてはそのような申し出に対して十分配慮されているように思うため。

障がい者・障がい学生との意思の疎通が難しく、十分に要求を受け止めていないかもしれないが、本人が泣いたり・大声を出したりといった行動時に原因を探して、対応するようにしている。

障がい者から申し出を受けた経験がなく、申し出やすい雰囲気を意識したことがなかったため。

障がい者に対する配慮が必要であることの認識は全教職員にあると思うので、申し出はしやすいと思う。

障がい者の方が日常的に働いている姿を見かけない。働きにくいという表れではないか。

障がい者を雇用しているのを目にするので、採用に積極的なのは感じる。

障害に対する知識が、不足しているため、どの様な配慮が必要なのか分からない方が多いと思うから。

障害のない学生がサポートにつけるようなシステムがあり、サポートを提供する側と受ける側の心的なハードルが低いように感じる。

職員の障がい者比率でいうと、多様性は比較的少ないのではないのでしょうか。できるだけ目立たないように、と皆さん隠されているような気がします。

障がいをお持ちの方々にないと、本当のことはわからないのではないのでしょうか。このような質問をすること自体、あまり意味が無いような気がします。

全学・部局・指導教員など、相談窓口が複数あるため、相談しやすいところに相談できると思うため。

相談室だよりが定期的に発行されているから。

相談先があり、周知もされている。

窓口がどこにあるのかも分からず、どこまで関与してもらえるのか、また不利に働くことがないのか、何もみえてこないため。

大学内で、「障がい理由とする差別の解消の推進に関する法律」に係ることで対応や相談を受けることについて、当事者意識を持って過ごしている人が少ないと感じるから。

担当の部署がわかりにくい。障害者相談センターの規模が小さく明るいイメージではない。雰囲気が暗くて近寄りにくい。障害者支援センターのネーミングが良くない。

障害がある職員の評価が、その理由をもって低いと評価する管理職員がまだにいる。他の部局では問題がなく、仕事内容も評価が高いのに障害があると聞いただけで判断する人が、いまだに存在するのが岡大の現状です。管理職員はもとより、全職員の、まず mind を変えていくことから始めなければ駄目だと思います。この社会は健常者だけの世の中ではなく、障害者もいればマイノリティもいる。色々な人が住む多種多様な社会が当たり前だということに多くの職員が気づくことが肝要です。

当事者でないから。

当事者でないため。

当人の気持ちが分からないため。

特に昭和気質の方々、令和であるのに昭和のままで生きている方が多い。障害者の方以前に人として扱っていただきたい。

入学時から教職員やいろんな部署が連携している場合は相談しやすいと思う。病院内なのでそれが普通だと感じている。

普段、障がいを持つ人と一緒に働いていないため。

福利厚生のはっきりされていると感じているので、申し出もしやすいと思われま

す。

聞かれたら言うが、自分からは言えない。

2020年4月赴任であるため、判別できないため。

あまり聞いたことがない。

シラバスに配慮する旨記載している。

そのような申し出をほぼ知らない。それは申し出やすい雰囲気がないためと思われる。

そのような人を構内で見かけることがないから。

そのような問題に直面していないから。

その他の大学のシステムから想像して、言えば最低限のことを事務的に対応してくれる、という感じではないかなと想像する。

そもそも障がい者という言葉に配慮が感じられない。障害という日本語をもないがしろにしている。（最近このように表記されることが多いのは知っている）

メールでのアナウンスなどもあるので、全くない、あまりない、ということでもないと感じる。

わかりません。

学生についてはまあまああると思うが、職員についてはあまりないと思う。

学生の利用する頻度の多い部署をふだん利用しないため評価が難しい。

教員が知らないうちに、事務方により、ある程度のケアが進んでいる。

教員と学生の仲が良いと思うので、申し出しやすいのではないかと思う。ただ、学内で障がいのある方を見かけたことがないので分からない。

教職員が日々の業務に追われ、障がい者・障害学生への配慮をする余裕がないように感じる。

現実に、障害等の問題に対する告知が自分の講義の前になされているため。

現状があまり把握できていないため。

講義などである程度配慮されていると思います。

国立大としてのプライドやグローバル人材育成というエリート中心の思想が強く、社会的弱者が居づらい雰囲気がある。また大学執行部役員からの挨拶にも意味不明で変なカタカナ語が多くとても読みづらい。読解能力に障害のある学生だけでなく、他の教職員にも分かりやすい言葉を使用してほしい。カタカナ語を濫用することほど恥ずかしいことはないと思う。

指導教員の支援がないと、学生からは直接申し出ることは難しい。
私は障害者ではないので、よく分かりません。

障害を持つ学生を見たことがないから。

自身や周囲のものが該当しないと思われるので、雰囲気はわからない。

自分が障害者でなく、同僚にもそのような職員さんがいないためわからないです。

実際に、障害を持っている学生（例えば、起立性低血圧や精神疾患など）がサポートを受けられていない。学生が留年して退学するか、自殺するのを待っているだけのよ

うにさえ見える。
実際の生の声を聴く機会があまりないため。

十分かどうかは分かりませんが、申し出る環境はそれなりに整っているかと思いま

す。
所属部局で障がい学生への対応に取り組んだことはあるが、それ以外の場面をよく知

らない。
障害のある教員も働いている。

障害のある方が、申し出やすいと思っているかどうかわからないから。

障害学生支援室の設置。

障害者がどのように感じているかを聞いたことがないから。

身の回りに障害者・学生がおらず、そのニーズを意識して設備をチェックしたことが

ないので、正直わからない。
申し出に対して、どのように対応すべきかが不明瞭。

申し出の方法や相談先を統一した形式でシラバス内に組み込むことが一般的に実施さ

れているので考慮すべきであろう。また、申し出があった学生の履修科目担当者に毎

学期配慮が必要となる旨を伝えるシステムが必要である。
申し出やすい雰囲気のイメージがつかないため。

相談先が嘘を平気でつくから。

窓口部局の先生方は大変親身に対応して下さっているが、やはりケースバイケースで

対応せざるを得ず、学生ひとり一人について細やかな聞き取りや対応を行う必要があ

る事を考えるとあまりにもご負担が大きいのではないか。もっと人が必要。
担当の方を存じていないので。

着任したばかりなので。
着任後間もない。

当事者と接したことが無いので、わからない。漠然とは出来ていると思う。

特に精神障がいや発達障がいの場合は、自身の障がいについて開示することで、何ら

かの不利益を被るかもしれないと考えているような雰囲気をまだ少なからず感じるも

の、少なくとも一昔前よりは、そういった障がいに関する知識が一般社会の中にも

かなり普及してきており、当事者が周りに相談しやすくなっているように思えるた

め。
配慮の申出について、自分自身の観測範囲では、見たことがなく、よくわかりませ

判断基準と関連情報を持たないため。

比較的自由な校風ではあると思う。話しやすいのではないか。

部局長および執行部のリーダーシップが示されていない。

雰囲気はあると思うが、当事者にとってどうかが分からないから。

雰囲気はあるのではないか。

雰囲気は分かりません（当事者が感じるハードルなので）。自分が担当する講義でも確実に配慮を求めるメールが（年間一人か二人？）教務からやってくるので、利用する学生はいるのだとわかります。

For Japanese students: Yes; For International Students: No

学生が相談先などに気軽にかかわることができる場面が多いため。一方で、場所が各学部直属というわけではないので、学部や担当教員の雰囲気などによっては相談しにくい場合もあるのかもしれないと思いました。

あまり申し出を受け入れるポスターなどを見たことがなかったため。

アンケート項目で配慮された選択肢をよく見かける。

そのような情報開示はしっかりしていただいている印象をメールや、ホームページからは受ける。

自分も障害がありますが、申し出しやすいと思います。

わかりません。

岡山大学は先生も職員の方も優しいから。

関係した内容のメールが来る。

関心をもったことがない。

気にしたことがないため。

教授の方々や事務の方がとても親切で、障害に関わらず、困ったことがあれば些細なことでも対応してくれるから。

自分が学部学生時代に病気で苦しんでいた時、怠けているというような態度で接する教員がおり、障害に対しても同様に捉えているのではないかと考えるため。

相談先がどこなのか分からないから。

通学したことがないのでわからない。

当事者にならない限り、分からないと思う。

特に聞いたことがないため。

I think achieved well.

本学全体での状況がつかめない。

自分の意見や助けを言えば、落ち着いて、話を聞いてくれるから。

特別岡山大学にそのような雰囲気があるとは思いません。

「あなたは、岡山大学に勤務しているんだから」と良く言われ、全部あからさまな相談ができない雰囲気がある。

(不満があっても) 直接の上司なので評価にひびくかもしれないと思って言わないし、…あまり言えるタイプじゃないので言いにくい。言っても…何一つ改善されないうえ、注意ばかりされる。…そして、それを言ったとしても何一つ改善されないの言っても意味がない。

上司に意見をしようとするすると面倒くさそうに嫌な顔をされるので何も言えません。そうじをする時に声かけなどきちっとしているから。声かけができている人と、相手に気をつけているのかできていない人もいます。

自分のいる部署では話し易い雰囲気があると思いますが、その他の組織がどうかは分かりません。

上の立場、役職である人達が、高圧的な指導などのハラスメントを行っていたり、決めつけでの判断、平等でない対応を実際に見てきているから。

「出来るでしょう。」「してあたり前」という暗黙の雰囲気や環境がある。何回も尋ねたり、声をかけることを「良し」としない事が考えられる。

6-3. 「セクシュアルマイノリティ」に関する自由記述について

6-3-1. 差別的な言動や場面

セクシュアルマイノリティには、LGBT(レズビアン, ゲイ, バイセクシュアル, トランスジェンダー)や X ジェンダー(性自認が男女どちらかに決まっていない), アセクシュアル(無性愛)などがあり, 約 13 人に 1 人の割合で該当者が存在しているとも言われています。このセクシュアルマイノリティについて, 「本学で, セクシュアルマイノリティへの差別的な言動や場面を見聞きしたことがありますか。(大学キャンパス内外を問わず, 正課外活動や懇親会など本学が実施する諸活動を含みます。)」と聞いたところ, 以下のような回答 (Table 6-10) が得られた。

(Table 6-10)

	見聞きした ことがある	見聞きした ことはない	分からない	合計
回答者数 (人)	179	1169	356	1704
割合 (%)	10.5	68.6	20.9	100

この回答に基づき, 「どのような言動を見聞きしたか」について任意で自由記述を求めた結果, 全 179 名の「見聞きしたことがある」という回答者中 50 名 (27.9%) から意見 (Table 6-11) が得られた。

直接的な差別的言動自体は多くないと考えられるものの, まだジェンダーに基づくステレオタイプが含まれた言動もあり, 理解啓発を継続していくことが求められると考える。また, 何気ない会話に垣間見られる差別性が意識できていないことで生じたケースと推察される意見もあり, どのような言動が差別に抵触するのか, 具体的な事例を踏まえた理解啓発や研修の機会も継続的に必要ではないだろうか。

(Table 6-11)

分類ラベル	件数	主な意見
△差別や中傷があった（直接的・間接的全て）	31	<p>基本的に男女ヘテロの恋愛，結婚等に関することは「全部」差別的と言えるのではと思います。</p> <p>今では，表立って口にされることは多くないように思うが，ちょっとした会話の中で差別的発言を耳にすることは多々あり，本質的な理解がどの程度進んでいるのだろうかと疑問に思う事がある。</p> <p>LGBTの当事者について、その存在自体が「全く理解できない」という言動。知りたいという動機かもしれないが、理解したくない、理解する必要がないという意味だったかもしれない。話題に上ること自体を避ける風潮もある。</p> <p>本当にそうかは分からないが、知り合いがゲイのカップルであるという話になった際に、もし本当にそうだとしたら快く受け入れられないという話をしている場面に遭遇したことがある。</p>
△大学内ではないが差別や中傷を見聞きした	5	<p>自分が学生の時に、クラスの人が「オカマって気持ち悪い」など言っていたので、それは良くない発言だなと思ったことがあった。</p> <p>TV番組等で面白おかしく描かれる。</p>
分からない	8	話題になることはない。
その他	4	セクシュアルマイノリティへの差別的な言動や場面を見聞きしたことはないが、パワハラ発言はあるので、実際にはあるのだと思う。パワハラをする人がセクシュアルマイノリティへの理解があるとは思えない。

6-3-2. 配慮した設備の整備

次に、「本学では、セクシュアルマイノリティに配慮した設備（トイレ・更衣室等）が整備されていると思いますか」と聞いたところ，以下のような回答（Table 6-12）が得られた。

(Table 6-12)

	十分に整備されている	やや整備されている	あまり整備されていない	全く整備されていない	わからない	合計
回答者数（人）	47	201	597	280	569	1694
割合（%）	2.8	11.9	35.2	16.5	33.6	100

この回答に基づき、「そのように思う理由」について任意で自由記述を求めた結果、全1694名の回答者中196名（11.6%）から、243件の意見（Table 6-13）が得られた。

トイレや更衣室を中心に、セクシュアルマイノリティに配慮した設備はまだまだ十分ではないという意見が多い。だが同時に、この課題に対しては必ずしも多目的トイレの整備だけで万全に対応できるとは言えないことから、全てのニーズに対応するのは困難ではないか、といった意見も聞かれた。今後は社会全般において、トイレ等の必要性及び緊急性が高い設備を中心に配慮は進んで行くだらう。現状のニーズに沿った課題解決を図りつつ、国内外における新たな配慮事例を踏まえて変更や調整が必要な場合もあるのではないだろうか。予め柔軟な設計にしておくことが重要ではないかと考える。

(Table 6-13)

分類ラベル	件数	主な意見
○トイレの配慮がある	34	多目的トイレを多くの場所で見かけます。 多目的トイレが随所に整備済であるため。
○更衣室・スペースの配慮がある	5	必要な場合に必要に応じて設備やスペースの改善をした事例をいくつか知っている。 対象者のために更衣室を別途用意。
△トイレの配慮が不十分である	58	様々な人が使用する施設を中心に誰でも使用できるトイレはあるが、男女のトイレとは見た目の使用が異なるし、全ての施設に男女用トイレと同等に整備されているとは言えないから。 トイレが特に整備されていない。デリケートなことなので早急に整備してほしい。
△更衣室・スペースの配慮が不十分である	26	更衣室には、「多目的」のものはないから。 更衣室については、一般の職員数も確保できていない状況にある。 セクシャルマイノリティへの配慮どころか男性更衣室、女性更衣室がない部署がある。
△全般的な設備における配慮が不十分である	64	整備するスペースが少ないとおもう。どうしても教育研究スペースが優先される場合が多い。 明確に男性用、女性用と別れた設備は多いが、多目的に使用できる設備は少ないように思う。

△（ニーズが多様化等）対応には限界がある	5	すべての人への配慮はできないと思う。トイレや更衣室がいくつあっても足りない。 男性、女性、多目的、これ以外のトイレという意味ですかね？それはなかなか厳しいのではないのでしょうか。必要なのかもしれませんが、お金や場所のこともありますし。 実際にLGBTQの学生への配慮となると、具体的にどのように整備すべきかでマイノリティ間のコンフリクトもあり困難を極めるでしょう。
△理解啓発が不十分である	2	他大学をみると男女共同参画宣言に性的マイノリティについてもしっかり書き込み、このようなことに先進的な企業ではCEO等トップがレインボーイベントに積極的に参加している。本学ではそうした取組の発信がされていないか、発信力が弱いのではないかと感じる。
分からない	40	具体的にどのような配慮が必要かわからない。 どのような設備があれば良いのかわかりませんので、整備の状況も評価できません。
その他	9	逆に整備することがいいのかもわからない。以前、自分は女性だと思っているのに、使用が許されたのは多目的トイレで、それが嫌だったというニュースを見たことがあるため。
特にない	0	

6-3-3. 相談先の整備

また、「本学では、セクシュアルマイノリティが必要とする支援について、相談先が整備されていると思いますか」と聞いたところ、以下のような回答（Table 6-14）が得られた。

（Table 6-14）

	十分に整備されている	やや整備されている	あまり整備されていない	全く整備されていない	わからない	合計
回答者数 （人）	45	260	320	57	988	1670
割合（％）	2.7	15.6	19.2	3.4	59.2	100

この回答に基づき、「そのように思う理由」について任意で自由記述を求めた結果、全1670名の回答者中118名（7.1％）から、133件の意見（Table 6-15）が得られた。

様々な事柄について相談窓口はあるものの、ことセクシュアルマイノリティの相談に関しては、どこに相談して良いか分かりにくい、という意見が複数あった。このことに加えて、この質問項目においても「わからない」と回答した割合が6割弱に上っており、窓口の明確化もさることながら、セクシュアルマイノリティ全般に関する理解啓発が継続的に求められる状況といえる。

(Table 6-15)

分類ラベル	件数	主な意見
○体制が整備されている（窓口・連携・部局内体制）	20	相談先は整備されていると感じるため。 ダイバーシティという大きなくくりで整備されているのかな、という知識くらいしか持ち合わせていませんが、大卒ではやや整備されているのかなと思いました。
○周知がある（メール・文書等）	9	相談室からのメールもしばしば受け取るし、ポスターなども沢山貼ってあるため。 チラシやメール等で常時発信している為。
○理念の定着・浸透が進んでいる	2	少なくとも岡大病院にはジェンダークリニックが開設されているので、支援しようとする姿勢はあるのかもしれないね。 医学部などに専門的に取り組まれている先生がいらっしたり、セクシュアルマイノリティに関するサークルがあったりもするため学内での受け入れる意識は高い方なのかなと思います。
○他の機関と比較してよい	1	他大学よりは良いのでないか。
△体制が整備されていない（窓口・連携・部局内体制）	16	悩み全般については学生相談室であったり、ハラスメント案件であればハラスメント防止対策室等、一応相談できる部署は整備されているものの、セクシャルマイノリティに関する専門の相談部署というのは存在しないため。 他大学、特に私立大学では、就職面接時、学生が自ら性的マイノリティであることをカミングアウトする事例が蓄積され、こうしたリスクへの対応が進んでいる。これに対する認知や認識が薄い。
△周知が不十分である	24	まず、必要な支援というものがあるのですか？ カミングアウトしないと相談することもないわけで、それで生じた問題は相談を受けても解決はしないと思いますから、大学の全員が包括的な理解をするように教育をするしかないでしょう。 少なくとも職員である私自身は、何か相談したいことがあったときにどのように相談してよいのかわからない。

△理念と定着・浸透が進んでいない	2	岡山大学に受け入れる土壌が育っていない。外への発信はSDGsなどがあるが、実際は旧（昔ながら）の考え方が全体に見られると考えるし、感じられる。 大学として対応するという宣言をトップが明確に発信しなければ、下の人間は積極的に動けないし、相談する側も相談できないと思う。
△我が国における社会課題である	2	本人にとっては秘密の保持が重要だが、大学のような大きな組織では運営側としては情報共有も重要。本人が一番納得のいく形になるよう安心して相談できる体制はまだ日本全体で整っていないと思う。セクシュアルマイノリティが特別ではない（秘密にする必要がない）個人として自然に社会に認められる世の中に変わることが大切だと思う。
分からない	54	自分が該当しないため、相談先を調べたこともなく、わからない。 特に相談を必要としたことがなく窓口を知ろうとしたことがないため。
その他	2	逆に、それ専用の相談先だと宣伝しない方が良いのかもしれない。
特になし	1	

6-3-4. 申し出やすい雰囲気

最後に、「本学では、セクシュアルマイノリティが、配慮を必要とする時に申し出やすい雰囲気があると思いますか」と聞いたところ、以下のような回答（Table 6-16）が得られた。

（Table 6-16）

	十分に ある	ややある	あまりな い	全くない	わから ない	合計
回答者数 (人)	31	183	415	86	952	1667
割合 (%)	1.9	11.0	24.9	5.2	57.1	100

この回答に基づき、「そのように思う理由」について任意で自由記述を求めた結果、全1667名の回答者中112名（6.7%）から意見（Table 6-17）が得られた。

この項目の自由回答は重要な示唆やニュアンスを含んでいるため分類はせず、以下に全てを掲載することとした。ただし、個人が特定される恐れがあるものはニュアンスの保持

に留意した上で一部の情報を割愛している。また、タイピングミス等と明らかに判断できる誤字・脱字（例えば、「私のの場合…」といった助詞の重複等）については修正を加えた。

(Table 6-17)

SNS 等による相談体制が整備されているため。
ウエルカムですと言っている感じは感じられないから。
この点について学生の状況も含めて情報を把握していないのでよくわからず「未回答」としました。
セクシャルマイノリティーの人をネタにするような会話が行われていると感じることがあるため。
セクシャルマイノリティーの方々から申し出を受けた経験がなく、申し出やすい雰囲気を意識したことがなかったため。
セクシュアルマイノリティーに関する話題がタブー視されている。又はからかいの対象になってしまう傾向にあるから。
セクシュアルマイノリティーの人にだけ配慮を求めるのは平等とは言えないのではないか。
セクシュアルマイノリティーの方への配慮とは。相談を受けた職員の個人の意識の問題なのでその都度対応することを心がけるしかないと思う。窓口を特別設ける方がたらいまわし感があって逆に差別。
セクシュアルマイノリティーの方を認識したことがないから。
そういうことを想定した対応方法を全学の教職員が学んでいないから。
そういった雰囲気を具体的に感じるということがないのでわからない。
その立場になってみないとわからない。
それについて、目にしたことも耳にしたこともないので。
それはマイノリティーの人でないと分からない。
ダイバーシティ推進センターや、病院があるので、相談しやすいのではないだろうかと思われる
マイノリティーについて知る機会は少なからず設けられているように感じるが、社会全体的にマイノリティーへの偏見は依然として強いため、LGBTQ フレンドリーの大学としての土台を作ったうえで周知するなどして言いやすい雰囲気にならない限り言い出しにくいことではないかなと思う。
まだまだ古い価値観が根づいているように感じる。
よくわからない。
以前、M to F の方の学内の講演を聞きに行ったことがあるが、講演後の学生からの質問が差別的発言に感じて雰囲気が大変悪かった。（私はその様に感じた。）
岡山市も昨年パートナー制度を創設したようだが、これを受けた学内の発信がなされていないか、十分でない状況にあると思慮する。
該当者に聞いたことがないため。
学生については学生支援センターだが、職員については不明。
恐らく所属部署でその様な申し出があれば配慮するであろうと思われたため。
言いやすいと思えたこと、考えられたことがない。
私の周りの上司はセクシュアルマイノリティーへの理解がないと感じられる。
自身に置き換えて考えてみた時に、申し出やすい雰囲気とは思えない。
自分自身、そのような相談を仮に受けたとして、どう対応してよいか分からないため。

実際どう対応するべきものなのかわからない。

実際に該当の事案を知らない。

実際に知っている人も相談していなかったため（自己決定）。

実際の利用者がどのように感じているかは不明のため、分からないとさせていただきます。

少なくとも教職員が申し出やすい雰囲気は皆無と思われる。

状況が不明

申し出たい方がおられても、どこへ言えば良いのか分からないと思うから。また、尋ねられても案内する場所や担当者を存じ上げないため。

数年に一度、学生が窓口で相談に来てくれたことがあるため

前述の理由と同じだが、まだ秘密にしたいと考える人が多いと思う。秘密が守られる確証が得られないと相談しづらいと思う。

相談先があることを知らないから。

相談先が周知されているように思えないから。

大学だけそのような環境が醸成されてもあまり意味がない。

大学の対応が伝わってこないから。

知らない。

知識としては皆、セクシャルマイノリティについてある程度持っていると思うが、実際にどの様な配慮が必要か、具体的に学んだことが無いと思うから。

当事者でないから。

当事者でないとわからない事情や個々の配慮が必要だと思います。一律に整備されているとは判断できません。

特に50代以降の方々の理解が乏しいと感じる。上司に相談はしにくい雰囲気といえる。

特に考えたことがない。

配慮の仕方に正解はなさそうですがどうでしょうか？

発達障がい等よりさらに繊細な問題だと感じるため、障がい者支援とは別で、専用の相談窓口があったほうが利用しやすいと思います。あるのかもしれませんがこれまで意識していませんでした。

必要な配慮という前にセクシュアルマイノリティであると告白することが必要なので、まずそれが難しいでしょう。本学という前にダイバーシティ推進本部が「申し出やすい雰囲気」の手本を見せてもらえばと思います。

聞いたことが無いと思うが、自分事としてとらえられていないせいかもしれない。

聞いたことないし、俺自信がそういう奴に偏見があるし、理解したいとも思わないから。

(私がこれまで在籍した諸大学に比べると)多様性に対してあまり寛容ではない印象を受ける大学。

2020年4月赴任であるため、判別できないため。

LGBTに関する講演等なんども開かれており大学内での理解を進めている印象があるSDGsにジェンダーに関する内容があるので大学が配慮していることはわかる。また、ジェンダーに関する研究やセミナー、関連科目も見受けられるので、その雰囲気は間接的にであるが作られているように思う。

あまり当事者から話を聞いた経験がないため。

ある程度の支援の経験はあるが、それがどのくらい本人のニーズにこたえられているかわからないため。

スラックスズボンの導入が生徒の声から導入された例があるため。

セクシュアルマイノリティとっていない人から「十分にある」と回答されても、何か意味がありますか？まずこの問題について申し出を行いたいと思ったことがあるか

どうかを先に聞かないと。

そのような状況にあると自覚したことがないので、何が望まれているのか、わからない。

その内容にもよるが、配慮を申し出るときと言うのはよっぽどのときだと思うので、申し出やすい状況というのは基本的にありえないと思う。

そもそも、そのような対応に必要な素養を持つ人材が不足しているように感じられ、それに端を発する雰囲気不足。

そもそもカミングアウトして主張できる人とできない人がいると思われ、本学だけの問題ではないので、障害者などと同じにはあつかえそうもない。

ないとも思えるし、あるとも思えるので、わからない。

メールで連絡があるから。必要があれば問い合わせすることはできそうに思う。

意識したことがない。

教員と学生の仲が良いと思うので、申し出しやすいのではないかと思う。ただ、学内でセクシャルマイノリティの方に接したことがないので分からない。

教職員および学生の間認識が広まっていないと感じる。

具体的な事例を見聞したことがない。

経験がなくわからない。

(当事者の方が) 戸籍が変わったことを申し出たそうです。そのとき、窓口の方が対応がわからず、周りの方に尋ねて、事務員の何人かが寄ってきたそうです。大変嫌な思いをされたそうです。窓口の対応が分からないときには「対応につきましては、後日こちらからご連絡します」など伝えて書類を受け取るに留めたほうが良かったのでは？ご検討頂けると幸いです。

私のいる部署ではあるが、他の部局では分からない。

私個人としては受け入れられると思うが、学内についてはわからない。

自身や周囲のものが該当しないと思われるので、雰囲気はわからない。

事例に遭遇していないため。

社会全体がまだまだだと思います。

所属する部局は様々な多様性が日常的に存在しておりセクシュアルマイノリティもその一つという感覚で教職員や学生の間では認識されている気がする。全学的な雰囲気や取り組みはあまりよく分からないというのが正直なところ。

身の回りにセクシュアルマイノリティがいないから。

精神的なカウンセリングがある それ以上は精神科を受診すればよい。

他大学より申し出やすいのではないか。

大学として対応するという宣言をトップが明確に発信しなければ、下の人間は積極的に動けないし、相談する側も相談できないと思う。

第三者が相談先の有無を認識できていない現状なので。

男女の一夫一婦制や結婚が当然視されており、他の選択肢への理解が足りない。

着任したばかりなので。

着任後間もない。

当事者でないので、どのようなレベルにあるのかよく分かりません。

特にありません。

判断基準と関連情報を持たないため。

聞いたことがないため。

理解できないような顔をされては、相談できないと思う。安心して話せる相手がどこにいるのか、伝わっていないように思う。

留学生の場合、文化や言葉の壁があり、なかなか申しにくい部分が多いのではないのでしょうか。

Not very favorable, as throughout the country.

学内の雰囲気として、積極的に受け入れている場もあるため。

SDGs の取り組みを積極的に行なっている大学という認識は学生にもあると思います。

これについても聞いたことがありません。

わかりません。

岡山大学が、というよりもまだ日本では受け入れにくい傾向があると思う。嫌われたくないという思いはとても強いものなのだと思う。

学生に限らず、教員の方々もそうですが、そもそもセクシャルマイノリティという概念についての理解がまだまだ及んでいないのが現状だと思われます。もちろん、当事者たちにも、知識的な理解が追いついていなかったり、そもそも自覚していなかったりする姿は見られます。何十年も前からセクシャルマイノリティという存在はあったと思いますが、それがたまたまこの数年で世間の目に当たるようになってきただけではないでしょうか。今後、自分は当事者であると申し出てくる人の数は増えてくるのではないかと考えますが、それはセクシャルマイノリティの絶対数が増えているのではなく、申告する人が増えるだけだと思います。13人に1人と言われていますが、現に自分のように、表に出していない人間もいますし、そういった人間の方がむしろ多いと感じます。それでも13人に1人という割合は、単に「意外と多いね/少ないね」に終わるものではないと考えます。

学部の先生や職員の方は優しいから。

申し出先を聞いたことがない。また、もしそうであったとしても今後の待遇について不安を感じ、申し出ないのではないかと感じます。

先生方がどれだけ理解があるのかわからないので。

相談室があるかどうかも知らなかったため。

相談先がどこか分からないから。

当事者にならない限り分からないと思う。

特に聞いたことがないため。

Many people are prejudiced against sexual minorities, and they consider them that they just want attention.

実際に申し出れば対応してもらえるだろうが、申し出ようと思えるような雰囲気づくりはない。

本学全体での状況がつかめない。

そんな雰囲気を感じたことがないから。

言いやすいような環境のようなふんいきのある職場ではないような気がする。

自分のいる部署では話しやすい雰囲気があると思いますが、それ以外の組織がどうかは分かりません。

自己開示をしても受け入れられる環境が、岡山大学にはあるだろうか。今現在、職場の中を見渡しても、皆無に近いと感じている。その中で開示をする意欲もうせて、「〇〇してもらいたい」と言えることは、ない…と思う。

6-4. 「海外からの研究者・学生」に関する自由記述について

6-4-1. 相談先の整備

本学が SGU(スーパーグローバル大学創成支援)事業に採択されている大学であり、積極的にキャンパスのグローバル化に取り組み、海外からの研究者・学生を迎え入れてきたこ

とについて、「本学では、海外からの研究者・学生が必要とする支援について、相談先が整備されていると思いますか。」と聞いたところ、以下のような回答（Table 6-18）が得られた。

(Table 6-18)

	十分に整備されている	やや整備されている	あまり整備されていない	全く整備されていない	わからない	合計
回答者数 (人)	103	609	292	33	660	1697
割合 (%)	6.1	35.9	17.2	1.9	38.9	100

この回答に基づき、「そのように思う理由」について任意で自由記述を求めた結果、全1697名の回答者中167名（9.8%）から、213件の意見（Table 6-19）が得られた。

相談窓口自体の充足というより、多言語に対応可能な専門人員の拡充について課題があるという意見が多かった。また、通知文等が日本語のみであることも多く、教職員・学生ともに対応に苦慮しているという意見もあった。全ての記載を多言語化することは困難が想定されるため、最低限、英語の併記必須化を継続・徹底することとし、その他の言語についての基準等を検討していく必要があると考える。

(Table 6-19)

分類ラベル	件数	主な意見
○体制が整備されている（窓口・連携・部局内体制）	34	留学生寄宿舍についても、相談しやすい体制が整っていると聞いたことがあるから。 国際部・留学生相談室があり機能していると思うから。
○専門人員が配置されている	7	学生にアドバイスする教員が付いていると聞いている。 相談対応者が雇用されているため。
○対応ができていない・困っていない	12	少なくとも私が所属する部局において、ここ10年ほどの間に、海外留学生が心の病を患ったり、教員と研究上の問題が発生し教員との関係をこじらせてしまったり、また大量に退学したりなど、大きな騒動があった時には、当事者らとは少し距離を置いた教員らが積極的に解決に乗り出していたから。 コロナ前は、海外からの留学生や医師など、よく院内で見かけたり、医師たちも快く受け入れている場面をよく見かけたから。

○周知がある（メール・文書等）	5	看板がある。 相談先があることは知っています。
△体制が整備されていない（窓口・連携・部局内体制）	60	様々な研究者や学生がいるため、もっと通訳ができる学生チューターを増やしたり、困ったことをゆっくりと話し合えたりする場を増やせたらいいのではないかと思うから。一人の教員やチューターの学生の負担が多くなりすぎてしまわないようにもっと工夫ができたらいいなと思います。 大学の組織上、国際部、部局、受入れ窓口教員と相談場所がバラバラなので海外からの相談をまとめた総合窓口があると国際化が進んでいるようにみえると思う。
△専門人員が不足している	10	国際部の職員はとても大変そうであるから。 実質上、学生に関することはすべて各部局教務担当が担う。人員が不足しており、これ以上留学生を増やすのは、業務量が過剰となってしまう、無理がある。全学的なサポートを行ってほしい。そこにも人員が不足しているなら、是正すべきである。業務量に対して、正規職員の教務担当者が少なすぎる。
△対応に問題がある・日本語のみの対応である	29	The above answer is for those who are eager to learn Japanese and try hard to adjust to the existing system. 例えば、BCP 関係文書において大規模災害が発生したときに多言語、あるいはやさしい日本語で説明するサインやピクトグラムが十分に準備されているとは言えないと思う。 （英語中心で受講する）留学生に関する通知文は英語のものも用意してほしい。通知文が日本語だと、結局教員が翻訳して説明しなければならない。 When I moved here as a researcher and now a faculty member, I relied on friends to help me; the university was not very helpful because of the language barrier. The administration is also very rigid, and requires much paperwork which is only available in Japanese.
△周知が不十分である	6	チューター経験があるが、学生本人が相談先をあまり知らないから出来ないと言っていた。 大学構内についてはある程度なんとかなるだろうが、特に1人で日本に来た方は日常生活で困ることが多い印象がある。例えば、岡山大学周辺の留学生用マップを作成して、どんなものがどこにあるかを見て分かるようにできたら良いのと思う。

△さらにマイノリティな立場への対応が不十分である（英語以外の言語等）	9	ミャンマーや中国など、アジア地域の学生を積極的に受け入れている現状、もっと多様な言語に対応できる必要がある。 他国語表記が少ない（多国語？）。
△グローバル化が遅れている（留学生等が少ない）	2	外国人研究者の比率が低い。同じセクションに外国人研究者が少数しかいない。
分からない	35	海外からの研究者等と会話する機会がない。 あまり留学生への情報が入ってこないため。
その他	3	違う文化圏に来て、必要な支援？が十分に受けられるわけではないので、相談先が「100%」整備されることはありません。
特になし	1	

6-4-2. 申し出やすい雰囲気

最後に、「本学では、海外からの研究者・学生が、配慮を必要とする時に申し出やすい雰囲気があると思いますか」と聞いたところ、以下のような回答（Table 6-20）が得られた。

（Table 6-20）

	十分に ある	ややある	あまりな い	全くない	わから ない	合計
回答者数 (人)	101	468	260	27	843	1699
割合 (%)	5.9	27.5	15.3	1.6	49.6	100

この回答に基づき、「そのように思う理由」について任意で自由記述を求めた結果、全1699名の回答者中112名（6.6%）から意見（Table 6-21）が得られた。

重要な示唆やニュアンスを含んでいるため分類せず、以下に全てを掲載することとした。ただし、個人が特定される恐れがあるものはニュアンスの保持に留意した上で一部の情報を割愛している。また、タイピングミス等と明らかに判断できる誤字・脱字（例えば、「私の場合…」といった助詞の重複等）については修正を加えた。

(Table 6-21)

恐らく、スーパーバイザーを通じての申し出になるのだろうけれど、直接に申し出られたら、業務の負担が増えるので、申し出やすい雰囲気を作らせないのでは？

「海外」とひとくくりに行っている意味が分からない。国籍言語によって異なるはずなので、一概に言えない。

HP等で英語表記による案内はあるが、まだ十分でないと思うから。

留学生については、留学生相談室が設置されているが、研究者の相談先について理解していないため。

L-cafe より、留学生への食糧支援のための協力依頼メールがあったことなどから。また、留学生寄宿舎についても、相談しやすい体制が整っていると聞いたことがあるから。

あまり知らないが、コロナ時の食糧支援なども含め掲示があったため。

サポートする学生・職員はいるが、学生共通施設等を当該学生が一人で利用しようとすると言語のバリアが発生するように思われる。

その立場になってみないとわからない。

どこに申し出たらよいのか学内者でも不明。

どこへ、どなたへ相談すれば良いかわからないのではないかと、思うから。

よくわからない。

英語が通じない。

英語圏、中国語圏の方は申し出やすい雰囲気はあると思うが、その他の言語はあまりないのではないかと。

海外からの研究者・学生の方々から申し出を受けた経験がなく、申し出やすい雰囲気を意識したことがなかったため。

外国語を話せる PSW 等がないという認識。

外国人は、日本人に比べてしっかり主張するように思います。

外国人教員や留学生は、要望があるときは事務室に直接言ってくるか日本語の理解できる者と一緒に来ると認識している。

該当者に聞いたことがないため。

各部局対応だと、受入担当教員は自分で自分の首を絞めることにもなりかねないことはありませんか？

学生にとって一番身近な存在である指導教員によると思う。

協力的な研究室の学生・教員が多いように思う。

研究室には、海外出身の方も多くいるので、困った時は話しやすい環境だと思います。

言葉の問題もあり、受け入れ教員に依存しているのが現実である。

交流は積極的で、学内に障害になるものがない。

国際部・留学生相談室があり機能していると思うから。

国際部という専門部署があるため。

国際部などがそれなりの取り組みをしているから。

国内の学生と比較するなら、逆に申し出やすいとも言えると思います。ただし、結局のところの問題は「言語」ですので、日本人が「英語」で会話するようにならない限りは申し出やすい雰囲気はないと思います。

指導教員が事前に連絡をくれるから。

指導教員の方は親切に対応し、よく面倒を見られていると思います。組織的（大学として）にはまだまだ不十分だと思料します。

上記の相談室で相談する学生はある一定数にとどまっているのでは、と感じます。

留学生からどこに相談すればいいかわからない、日本語が理解できないので支援先が限られているといった意見を聞くことがあるため。

職員の英語能力を底上げする必要があると思います。普段からコミュニケーションをとるなど、こちら側が外国人に接することに慣れることが大事だと思います。

全ての窓口にそのような雰囲気があるとは言わないが、少なからず相談窓口があるため。

窓口の事務方もいまいちの反応だったので。

他大学に比べ、海外の先生方も多いような気がする。

知らない。

知人に海外の方がいないから。

直接見ていないから。

当事者でないから。

国際部や部局担当の存在。

特に、職員の日本語以外の語学力が低いと思うので、実際に窓口で配慮を必要とする申し出があるとかかなり困惑すると思う。何かこの窓口にはこんな相談を受けれる職員がいるなどの情報が見えるようになっているといいかもしれません。

特に考えたことがない。

特に相談を必要としたことがなく窓口を知ろうとしたことがないため。

日本の職員が外人に接しているところをほとんどみないから。

入学後はいろんな配慮がされていると思うし相談できると思う。

部局によって異なる場合があるようにも思うのでわからない。

福利厚生の方はしっかりされていると感じているので、申し出もしやすいと思われま

す。
留学生あての案内メールを日本語のみになっているので、理解できない。自分でGoogle翻訳をかけて理解しようと思ったが、結局間違った訳で違う行動をとったとのクレームがあった。

2020年4月赴任であるため、判別できないため。

少なくとも私が所属する部局において、ここ10年ほどの間に、海外留学生が心の病を患ったり、教員と研究上の問題が発生し教員との関係をこじらせてしまったり、また大量に退学したりなど、大きな騒動があった時には、当事者らとは少し距離を置いた教員らが積極的に解決に乗り出していたから。ただし私が所属する部局に限ったこと。

あまり留学生への情報が入ってこないため。

イスラム圏からの留学生に対し、礼拝の場を大学内に設けるなど配慮されていた。

こういった雰囲気を作るには、相談先担当者からの定期的な発信が継続されることが不可欠であるが、そのような発信がされていると海外からの研究者や学生からは聞いたことがない。また、海外からの研究者や学生が対象に入る場合は、学務課などからのメールの本文に英語表記を入れることを重要である。添付ファイルやリンクを開くと英語表記があることがあるが、件名と本文が英語表記されていなければ、それらを開かないことが予想されるからである。

そのような対応を経験していない。

そのような問題に直面したことはないから。

そもそも「海外からの研究者・学生」という表現自体が排他的である。日本で生まれ育った外国にルーツを持つ研究者や学生、ダブルやハーフの背景を持つ人たち、海外在住経験が長い日本人などへの視点が全く欠けている。質問項目も少ない。ダイバシティは男女だけの問題ではない。

どこに相談してよいかもわからないことが多いのではないかとと思われるため。

どのような条件で来日しているかによるので、十把一絡げにできないと思う。留学生の面倒は、受け入れ教員がよく見ている印象があるが、海外からの研究者とまだ接したことがないので分からない。

英語が通じない要員が多いが、雰囲気作りの努力は感じます。

英語を話せない職員が多すぎる。

英語力の欠如。

海外からの研究者については分からないが、少なくとも海外からの学生に対しては、グローバル・ディスカバリー・プログラム等、留学生に対応されている部署の教職員の方たちが親身に学生たちに関わっている印象があるため。

外国人研究者・学生がまず初めに参照するようなページには英語併記がされているので、相談等はしやすいのではないと思われる。

学生の利用する頻度の多い部署をふだん利用しないため評価が難しい

学生等が、困ったときの最初の窓口がどこかわかっていないことが多いと感じる。指導教員を窓口に行けるときはまだよいが、そうできるとは限らない場合もある（パワハラ、セクハラの場合など）。

基本的なインフラが乏しい。特にメンタルヘルス面。おそらく SGU 大学すべてに共通の課題と言えるが、この点を早急に検討した方が良い。

教職員が日々の業務に追われ、海外からの研究者・学生に配慮をする余裕がないように感じる。

研究者となると、個々に指導教員やラボのボスと相談して下さいという感じになっているように見受けられます。

研究者については分からないが、学生については、同国(または同地域)出身の知人ができるまで不安げにしている学生を時々見聞きする。

現状身の回りにないため。

言語対応の課題がある。

個人の性質によるが、配慮が必要な人間には配慮がなく、配慮を必要としないような学生が好き放題しているというのが現状だと思う。相談先に専門のスタッフを雇うなど、システムをきちんと作るべき。

国際部の方には相談に乗って頂けた。一方、外国人に対する配慮について、他の研究機関と比較すると、本学はまだ不十分と感じる。

事務が英語で対応できないと教員に回ってくる。

事務関係のメール、種々の書類、講習会などのほとんどが日本語のもので、英語版が非常に少なく、「本当にグローバル化を目指しているのか？」と感じることが多い。

自分自身は海外からの研究者と密に接していないため。

所属先ごとに事情が異なるため、一律には答えにくい。

少なくとも私の周りには、一緒に食事をする日を週一度作って実践している人がいます。

留学生を何人か引き受けましたが、それほど困っていないようです。相談先が整備されているようで、引き受ける側も助かることが多々あります。

専門の窓口は他大学に先駆けて整備されている。

前問同様です。海外研究者・学生はサポートを得られると思いますが、部局が担当しており、全学的なものではないと思います。

着任したばかりなので。

着任後間もない。

当事者でないので、どのようなレベルにあるのかよく分かりません。

当事者にとってどうかが分からないが、体制が整うにつれて雰囲気も変化しているから。

特にありません。

判断基準と関連情報を持たないため。

雰囲気はあると思う。

本学全体はわからないが、勤務先では留学生が多いので、あまりない様に思える。留学生が英語などでコミュニケーションをとれる事務職員の数が圧倒的に足りない。留学生からは頻繁に苦情を受けている。教員が留学生の希望や意見を頻繁に通訳をする必要があるが、負担が増えていると感じている。

留学生が受講している場合は、個別に困ったことはないか声かけするようにしています。

留学生や外国人研究者は、他のマイノリティーと比較すると、自分の意見をはっきり表現する人が多いため、相談室や同僚、部局などある程度の声を周りにいる人が拾って対応している。しかし、研究室内では教員と学生という立場上の問題があり、まだまだ言い出せずに我慢しているケースも多いと聞いている。

There should be more PR about the services available.

The above answer is for those who are eager to learn Japanese and try hard to adjust to the existing system.

There just isn't anybody to ask.

大学構内の問題は確かに解決しやすいが、日本語が分からないことによる小さな問題を解決するのが難しい印象。

あまり聞かないため。

研究室には男性スタッフしかいないので、女性ならではの配慮は 伝えにくいのではと、日本人の私としては思います。

国立大でありながら英語を使う人材が少なく、日本の恥であると感じる。

相談先がどこか分からないから。

知らないで、分かりません

当事者にならない限り分からないと思う。

留学生が困っている状況について聞いたことがあるため。

日本語と英語が常に併用されているから。

日本語を読み書きできる研究者や学生ならまだ苦労は少ないかもしれませんが、英語しかできない場合などに日本ならではの手続きや書類を扱わなければならないことが多いと、気をつかってしまう学生は日本語ができる人で気兼ねなく時間を取ってくれる人が身近にいないと申し出にくいこともあるように感じます。

留学生ではないから。

I am very appreciated that the university staffs have created many activities to support foreign students during covid-19 pandemic

岡山大学に限らず、英語が通じない日本人が多すぎるので、かなり苦労するだろうと予想しています。

知らない。

接する機会が少ないため。

「～しなければ・・・」というのが感じられ、雰囲気は少ないと感じるため。

6-5. おわりに

岡山大学ダイバーシティ推進本部では、男女共同参画室が 2009 年度に「岡山大学の男女共同参画に関するアンケート調査」を実施した。今回の 2020 年度調査「ダイバーシティに関するアンケート」においては、過去の調査と共通の設問も多く設けているが、本章の冒頭に記したように、「障がい」「セクシュアルマイノリティ」「海外からの研究生・学生」にかかわる項目をあらたに追加した。また、質問用紙の英語版、「やさしい日本語版」を作成することにより、より多様な属性の回答者が得られる配慮を試みた。

本章でこれらの項目における自由記述を対象にまとめと考察を行ったのは、用意された選択肢に対する回答を統計的に処理するだけでは得られない、本学構成員の多様な声がそこに反映されていると考えたためである。とくに全回答を再録した部分からわかるように、上記の属性を持つ構成員は大学の中でマイノリティに属していることから、直接かかわったことがないため、当事者が直面する困難やあるいは対応策についてわからないという回答も多く寄せられた。同時に、アンケート調査実施の便宜上、「障がい」「セクシュアルマイノリティ」「海外からの研究生・学生」という名称で括らざるを得なかったカテゴリーも決して一枚岩ではなく、その中に多様な属性が含まれており、当然のことながらニーズや必要な支援策も多様であることに留意する必要がある。

しかし、まずは教育・研究の場における本学構成員の中のダイバーシティを可視化するとともに、真のインクルージョン達成のための方策を検討していく上では、肯定的なものも否定的なものも含めたこれらの多様なコメントをまずは共有し、課題を拾い上げることが重要なのではないだろうか。